

武雄市議会だより

栄八通信

第 47 号

14710 月末発行



武雄市議会議員
宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

武雄保育所 『耐震診断すら不明?』

これまで、話題にならなかった武雄保育所の耐震問題が、私の懲罰の新聞報道で、県内的に知られる事となり、ある意味においては、良かった面もある。

私が初めて、武雄保育所の老朽化や耐震基準ができる前の建物であり、近くに移転改築する内容の実施計画(改定版)の説明を受けたのは、H15年である。

その後、中国での大震災以降、小中学校の耐震改築は急ピッチ。市長は、私の通信45号に対して「何が行政の不作為か?」と反論されるが、市が危険と説明した実施計画から8年、今回の調べで分かったが、H15年の改定の前のH12年の(原版)にも移転改築が明記されていて、それから丸10年間も実施計画を進めないのは行政の不作為と見れるのではないかとと思う。

ただ、私の求めるものは政局より政策で、こどもの安全確保です。そこで、市は、国の『子ども子育て新システム』の動向を見ながら改築計画の判断をするとのことだった。

しかも、早くその新システムの法案実施のH25年4月を期待していると言う。

『子育て新システム』とは

自民党の時代から、厚労省が進められている計画で、H25年4月の成立を目指している。

子育て新システムの2本柱は

- ① 幼稚園(文科省の幼児教育)と保育園(厚労省の保育事業)を統合した「こども園」を推進する。
 - ② 今後、保育等を行政の仕事からはずし、利用者と園との直接契約とする。民間企業の参入も可能。
- ①については、住まいの近くの園に行けるメリットはある。
- しかし、②については、介護保険制度と似た形になり、例えば4時間のパートでの勤務の場合、認定時間は4時間、それ以外の在園



しかし、多くの保育所や、市議会も国に対し、新システムには問題が多く、法案に反対、もしくは、大幅な実施延期等を求めている。

そんな状況から、H25年決着は、大幅に遅れると思われるので、それを基にした、改築計画は、予定がたたないと判断される。

まず、最低限の方策として、武雄保育所の、耐震診断を実施するよう一般質問で提案したが、市長の答は、またもや、それも『新システム』の動向を見て判断」との答で、市が何を考えているのか不明?

まさか、新システムの柱である保育の公的責任が無くなったなら、建替えどころか、廃止するのではとの心配もする。

朝日小の児童クラブ整備は宝くじ次第?

朝日小の児童クラブが、来年度分割される予定である。

H22年には、御船小でも行われている。その理由は、国県が、児童クラブの過密解消のため、児童数が70人を超えた場合、運営補助金が出ないと言う。そこで、分離して2クラブにする。

ただ、今回、私が問題と考えるのは、御船小の場合、学校施設の体育館の準備室の間借りから、独自にひかりっこクラブ・ゆめっこクラブと施設が完備された。

私は、保護者や子どもに喜ばれるこの事業が、このような形で、武



御船小児童クラブ

太陽光ソーラー発電 補助金追加100万円

本年度予定の、約百件分の一千万円が、半年余りで使い切る状況になり、更に100件分、一千万円を追加する。

現在、市内に太陽光パネルを設置してあるのは、777件で、その内、338件分が、市の補助を受けたものと言う。

現在、補助金の待機者は無いとのこと、今後の100件分は補助できるとのこと。

住宅のリフォーム(基本) 県補助金最大 20万円

県は、知事のマニフェスト事業である、住宅リフォーム補助金の制度をはじめ。期間は、H23、H25年の3ヶ年。なぜ県の事業を取り上げるのか?と言えば、市民からの補助金の受付を、市の建設課住宅係で取り扱うから。

気になる補助額は、工事費の15%で、最大20万円なので、逆算

すれば、135万円のリフォームが、メリットが大きい。

他に、エコ加算等も最大20万あるが、詳細は市報等を参考に。

(受付けは10月20日より)

一方、自治体によっては、市・町独自に加算する所もある。他議員の質問に対し、市長は、「個人の財産形成の手助けはしない。」との方針で、市加算はしないと言う。しかし、この事業の主な目的は、個人への補助でなく、地元産業の活性化や不況対策の経済政策であり、市内業者発注の場合、県補助金に市が1万でも2万円でも付けたが効果的と思ふのだが。

中3土曜学習会と英語スペシャリストプラン

【中3土曜学習会】

市内5中学校で、10月15日、2月25日の間18回の土曜日に、中学3年生の希望者を対象に、英数の基礎学力強化の目的で、取り組む。市教育委員会が主催で、補習授業を実施するのは初めてではないかと思う。

私も、以前より、義務教育の目的からしても、勉強が苦手の生徒に対する、底上げが必要と言う考えで、5年以上も前になるが、白石町の方で、夏休み最後の数日を学習会をされているのを知り、武雄市での実施も提案した事もあった。(一部、武雄市内も実施)

だから今回の教委の積極姿勢には多いに評価している。

一方、教えるのは、一般の教諭でなく、非常勤講師や教員退職者、またボランティアを充てると言う。予算120万円。

【英語スペシャリスト育成プラン】

名前から印象は、外国人とでも話せる人材育成の様に思う。

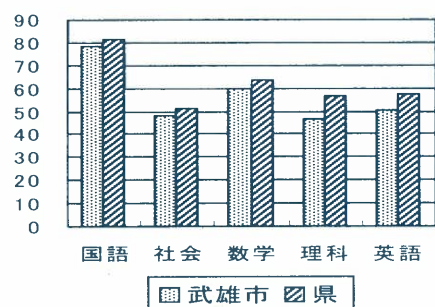
しかし、実態は、高校受験対策の為の高度の教育を実施するもの。受験が目的であれば、以前よりあっても良く、今回なぜ実施の運びとなったかと言うと。

県教育委員会が、24年度の高校入試改革を行ない、各高校が独自の選抜方法を行うこととなった。そこで、地元である武雄高校が、採点5教科各50点に、追加して英語に更に15点を加える方式を、県内で唯一取っている。

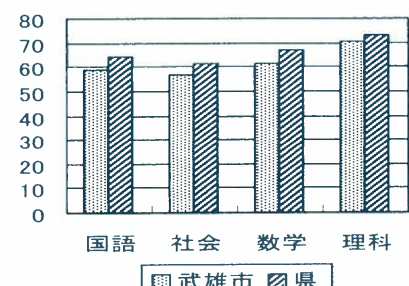
そこで、私が見るには、武雄高への市内入学希望者が、多く目的を達成させる為の対策と考える。

また、水曜日の放課後、市内中から、武雄中・山内中に集まり学習する。講師は入試の専門の力を期待してか、市内の学習塾の講師を頼むと言う。予算20万円

H23佐賀県学習状況調査
(中学校3年) 正答率



H21佐賀県学習状況調査
(中学校1年) 正答率
(現在の中学3年生)



急変

さぎの森広場廃止される
まちづくり計画が必要では？

9月補正予算に、さぎの森広場の土地購入の約1億2、500万円と造成費用264万円が計上されていた。土地については、元郵便局跡地を、温泉街の観光やまちづくり役立てるとして、市の別会計の道路工事の残地などを一時的に購入する。「土地基金」で、約10年前購入分の買い戻しの形。

一方、問題は、造成と言うことで、観光拠点の一つでもある。さぎの森広場の廃止・消滅も意味する。また、私もこの動きをまったく知らなかったが、近隣住民も殆んど知らない状況で、説明不足もはなはだしい。

そこで、都市計画課に、その理由を尋ねると、西浦地区の道路拡幅の家屋移転先との考えで、また、県道の武雄温泉線の道路拡幅にさぎの森の前の一部がかかるので、この際の廃止とも思われる。

一方、さぎの森のイベント広場としての機能は、現在、区画整理で整備する。市役所横の「まちなか広場」で代替すると言う。筋は通る。

	市の計画	私の提案
西浦地区代替地	さぎの森広場(300坪)75万	開発エリア(600坪)19万
開発エリア	集積施設	西浦代替
まちなか広場整備	さぎの森代替	市役所広場等総合整備
武雄温泉駅南清本鉄工跡地	駐車場・代替地	集積施設

しかし、私の予算の採決に先だつての質問において、さぎの森の代替とする。まちなか広場の整備計画を尋ねたが、具体的内容は示されていないと言うことだった。

そんな中で、賛成はできないと思う、約10年振りに、採決時に議場を退席した。

結局は、賛成多数で可決したわけだが、さぎの森広場の代替とする、まちなか広場の整備計画をちゃんと決めるまでは、朝霞の公務員住宅の着工、凍結ではないが、造成解体予算264万円の執行は待つて欲しい。

から考えても、移転者に広い土地を提供でき両者得策では。

また、開発エリアの目指した、集積した開発的な大きな施設は、本来そう言うものを考えていた、武雄温泉駅南の、清本鉄工跡地に計画すべきでないかと思う。

また、代替地の総合計画も必要。

一方、まちなか広場は、現在、市役所駐車場の不足で、市民の不満が多い。そこで、市役所の中央公園や駐車場をまちなか広場と総合的に整備し、新幹線にも備えたい。

要は、その場の玉



突き事業でなく、まちづくり計画を立てて進める必要がある。

陳謝文、朗読の拒否の理由

本来、議員に対する懲罰は原則、議会中の言動が対象で、しかも、3日以内の案件と規定してあり、どれもこれも認められていない。

一方、4月発行の第45号の栄八通信の内容を、6月議会で、懲罰委員会が賛成多数で設置された。

しかし、私から言えば、栄八通信は、議員の議会外の活動である。また、4月の件を6月に懲罰にするのは、3日間どころではなく、「議場内」「3日間」のいずれかの要件も、懲罰の対象にならないと私は考える。

しかし、賛成多数で、懲罰が決まされ、内容は、①注意②陳謝③出席停止④除籍の4段階の2番目の陳謝であった。

また、陳謝においては、委員会の作成した文章の朗読を求められた。私は、世の中には、多数決で自

石橋リハビリテーション病院のベット生かされる！

市内認可ベットの状況

入院ベッド20床以上の医療施設を病院と正式に呼び、それ以下を診療所（医院・クリニック）と言う。

一方、20床以上の病院のベッドには、国の設置基準があり、私たちが武雄市を含む、佐賀県の南部医療圏は、認可2070床に対し2513床と、今でも過剰ベッド地区となっていて、新たに病院を作ることは出来ない。（だから、巨樹の会も解体するを予定しながら、市民病院を買ったと思われ、この許可ベッドに大きな価値がある。）

一方、近年の市内病院の病床は

- ◎新武雄病院が135床（二般）
- ◎副島病院が58床（二般）
- ◎石橋リハビリ病院が40床（療養型）
- ◎持田病院が47床（"）
- ◎大野病院が193床（"）

の計473床は、近隣での入院の利便性から考えれば、民間病院と

北方で高齢者向け施設

いえども市民の共有の財産とも見れる。

今12月以降、武雄町内町の石橋リハビリ病院は、新たな経営方針を打ち出し保有する、療養型40床のベッドを転換し、幅広く高齢者対策を取りやすい、介護付老人ホーム（ほのか）と認知症対応グループホーム（ひなたぼっこ）を、市内北方町（馬神地区の喰道楽そば）に新たに整備する。先の介護ベッド40床が、市内から消えたり、売られたりせず、市内で施設介護のベットへと転換され、生かされる事にに対し、大変良かったと思う。

救急入院時の差額ベット料の負担

私が特に医療関係に詳しいわけではないが、市民病院の件で色々活動していた為か、時々市民の方から問い合わせがある。

その中で多いのが、救急車で入院した時の差額ベット料金に関してである。その市民の言う所では、緊急入院時に、一泊、約1万円の病室しか空いてなく経済的に苦しいが、仕方ないと入院したが、どうにかならないか？の質問。

そこで調べると、旧武雄市民病院は、差額ベットは、約15%しかなく、ほぼ5室程度は緊急時に備えて計画的に空けてあった。一方、国の基準では国立20%公立30%民間50%以下しか差額ベットにはできない。

だから、差額ベットを望まない市民の方は、まず、差額ベットが20%以下、反対に言えば、80%が普通ベットの、国立に行けば心配は少なくなると思われる。

そこで、南部医療圏の三次救急病院である、国立の嬉野医療センターの救急の状況を聞いてみた。

すると、患者様が個室を希望されることがあるが、基本的には患者様の希望される病室に入院することができるとのこと。

また、病院の都合で、特別室を利用する場合は、差額ベット料は取つてないとのことだった。

だから、もしもの救急搬送の時についても、日常から考えておく必要がある。